

第3学年 国語

第3学年の学習到達目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

第3学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	一 場面のように声を思いうかべながら声に出して読もう すいせんのラッパ どきん 夕日がせなかをおしてくる	場面の様子や人物の気持ちを想像し、読み方を工夫して音読する。	場面の様子を想像し、言葉のリズムを楽しみながら声に出して読む。 [声の大きさと高さ]
	国語じてんの使い方を知ろう/ 言葉の広場	国語辞典の仕組みや使い方を理解する。	国語辞典の使い方
	二 自分をしょうかいするスピーチをしよう 知ってほしいな、自分のこと しょうたいじょうを書こう	自分について知らせたいことを選び、聞き手のことを考えてスピーチの仕方を工夫する。	事柄を選び、みんなの前で自己紹介する。
	形のかわる言葉に気をつけよう/ 言葉の広場	学校行事などへの招待状を書き、相手や目的に合った文章を書く。	行事などの招待状を書く。
	運動会の作文を書こう	言葉の類別について知り、動詞や形容詞などの活用を理解する。	動詞、形容詞、形容動詞の活用
	運動会の作文を書こう	運動会のことを思い出して、書こうとするものの中心を明確にし、ながら自分の考えを書くことができる。	運動会を思い出して作文を書く。
	三 だんらくごとに内ようをとらえながら読もう 自然のかくし絵 どちらがすき	段落ごとのまとまりに注意して、書かれていることを正しく読み取る。	段落ごとに内容を正確に読み取る。
	漢字の組み立てと意味を考えよう/ 言葉の広場	大事なことが正しく伝わるように、話し方や聞き方を工夫する。	事柄を整理して話し、メモを取りながら聞く。 部首
	四 物語のあらすじを考えながら読もう ゆうすげ村の小さな旅館 出来事をつたえよう	共通する部分を持つ漢字があり、それらが意味の上でも共通性を持つことを理解する。	場面に移り変わりに注意して、物語のあらすじを読み取る。
	五 中心をはっきりさせてせつ明しよう わたしのお気に入りの場所 読書感想文を書こう	出来事を伝えるための必要な要素を落とさずに、文章を書く。	出来事を伝えるための事柄を選んで書く。
		伝える中心となることを決め、工夫して紹介する。	お気に入りの場所を取材し、話の中心を考えて分かりやすく説明する。
		自分が心に残った本について、自分の考えを段落に気をつけて書く。	心に残った本の読書感想文を書く。
後期	一 世界の民話を読もう 木かげにごろり	場面を展開を読み取って、物語のあらすじをまとめる。	場面に移り変わりを読み取り、民話のおもしろさを考える。 世界の民話を読んで紹介する。(読書)
	想ぞうを広げて	絵を見て想像した事柄を関連付けて、お話を作る。	絵を見て、想像したことをもとにお話を書く。
	二 いろいろなお祭りについて調べよう つな引きのお祭り	何が、どのように書かれているかに気をつけて文章を読み、地域の行事を調べて紹介する。	何がどのように書かれているかに気をつけて、説明されている内容を読み取る。

	漢字の表す意味を考えよう	漢字が複数の意味を表すことを理解し、漢字の表す意味の違いについて整理する。	漢字の複数の意味
	社会見学の作文を書こう	社会見学で心に残ったことについて、自分の考えを段落に気をつけて書く。	社会見学の作文を書く。
	三 つたえたいことをはっきりさせて書こう 「わたしの研究レポート」を書こう	身近な暮らしの中から、自分が興味を持ったことについて調べ、記録文を書く。	調べたことをレポートに書く。(横書き表記)
	様子をくわしく表そう/言葉の広場	修飾語を含む文の特徴を知り、様子を詳しく書き表す工夫をする。	修飾語
	生活をふりかえって作文を書こう	生活をふりかえって自分の考えを段落に気をつけて書く。	生活をふりかえって、作文を書く。
後期	四 よりよい暮らしについて話し合おう もうどう犬の訓練	書かれていることを段落ごとに読み取り、盲導犬について調べて分かったことを話し合う。	考えたことや調べて分かったことをグループで話し合う。
	いろいろなつたえ方を知ろう	言葉に代わる伝達機能を理解し、身の回りの伝える働きをするものについて考える。	音声や文字以外の伝達方法・点字
	五 中心となる人物の気持ちを考えよう サーカスのライオン	物語の中心となる人物の気持ちを考えながら読み、いちばん強く心に残った場面を発表する。	物語の中心になる人物の気持ちを考えながら読む。 心のふれ合いを描いた物語を読む。(読書)
	「こそあど言葉」を使い分けよう	指示語の働きについて理解する。	指示語
	六 想ぞうしたことを書こう 「もしもの国」に行ってみよう	テーマに沿って、想像したことを工夫して文章に書き表す。	想像したことを文章に書く。
	ローマ字	ローマ字で書かれた簡単な単語を読み、ローマ字を使って単語を書く。	ローマ字の簡単な単語を読んだり、書いたりする。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。</p> <p>【話す・聞く能力】 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。</p> <p>【書く能力】 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。</p> <p>【読む能力】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>児童の学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力の重視 これまで、児童が身につけた知識・理解・技能を重視していましたが、児童の学習意欲や思考力・判断力・表現力などの観点も大切にして評価します。</p> <p>個々の児童を多面的に評価 これまで重視してきたペーパーテストだけでなく、児童自身が作った作品、発言、ノート、アンケート、自己評価、相互評価など様々な方法により評価します。</p> <p>学習の進行中における評価 学習の進行中に現れる児童の思いや願いを、その都度評価し児童の指導に生かします。</p> <p>自己評価の重視 友達や教師とのかかわり合いの中から、児童自らが、自分自身の学習の仕方や理解の程度など自己評価したものも参考にします。</p>
---	--

特色ある学習方法

<p>(1) 音読発表会、想像物語作成、放送番組制作など、活動的な学習を仕組み、楽しみながら学習します。</p> <p>(2) 発声練習を取り入れ、正しい発声で音読ができるようにします。</p> <p>(3) 劇の発表を行い、学習の成果を保護者の方などに見てもらいます。</p> <p>(4) 調べ学習では、学校図書館やインターネットで調べたり、時には地域に出て調べたりします。</p> <p>(5) 図書ボランティアの先生に朗読を聞かせてもらいます。</p>
--

使用教材等

教科書「新しい国語 3年」 東京書籍 漢字ドリル

学習の興味を高め、理解を深めるため、図鑑、事典、インターネット情報などを教材として活用します。また、点字の学習では点字版、点字の本などを使用し、実感を伴う学習をします。

教科書教材と関連付け、同じ作者の他作品や類似のテーマの作品を取り入れていくことで、自分の考えをより深めたり、読書活動を広げたりします。調べ学習では、学校図書館を軸に課題を追究できる力へつなげます。

留意事項

(1) ノートの使い方について

3年生は「国語ノート」(15マス)、「漢字練習帳」(104字)を使用します。学校での学習活動に使用したり、家庭学習で活用したりします。年度当初は学校から配布したノートを使い、使い終わった時点で、同じノートを各家庭で用意してください。

(2) 家庭での音読にご協力をお願いします。

文章を正しくすらすらと読めることは理解につながります。毎日の課題として音読を出しますので、聞いてあげてください。そして、家族の団らんの時間にお子さまの伸びを話し合ってください。

(3) 漢字学習に根気よく取り組めるように支援をお願いします。

中学年は新しく学習する漢字の量がとても多く、漢字嫌いの子が増える時期でもあります。楽しくやる気をもって取り組める工夫をしていきますが、こつこつ丁寧に取り組めることが何より大切です。